

山形市放課後子どもプラン運営委員会 会議録

1 日時 令和5年2月13日(月) 14:00～

2 会場 山形市役所11階 1101会議室

3 議題 ○報告事項
(1) 令和4年度放課後子どもプランの概要
(2) 令和4年度放課後子どもプランの概要
(3) 放課後子ども教室の見直しについて
○協議事項
(1) 令和5年度山形市放課後子どもプランの実施計画について

4 出席者 大曾根小学校 校長 太田 千春
おもだかこどもの森 支援員 志田 季代江
東こどもクラブ 支援員 目黒 有紀
東小学校 PTA会長 井上 藤明
大曾根小学校 PTA会長 岡崎 真吾
中央公民館 館長 秋葉 春男
こども未来部 部長 奥山 泰子
教育委員会 教育部長 高橋 一実
コーディネーター 渋谷 健一

5 傍聴者 0人

6 審議経過

○報告事項 質問等はありません。

○協議事項 (1) 令和5年度山形市放課後子どもプランの実施計画について

(委員) 平成19年度に一小でも放課後子ども教室が始まったが、放課後児童クラブに入る子どもが少なくなるのではないかと心配があり、放課後子ども教室は週に2回とした経緯がある。放課後子ども教室を継続して実施しているうちに、いい方向に進んだのではないかと思う。

(委員) ここ数年で、放課後児童クラブの子どもは様々な良い経験ができた。子どもたちにとっては楽しい思い出になっている。放課後児童クラブの子どもが放課後子ども教室に参加するためには、おやつの時間やお迎えの時間等の様々な課題があるが、また参加したいと思う。

(委員) 自分の子どもが放課後児童クラブに参加しているが、放課後子ども教室のことは知らなかった。子どもが興味を持つのであれば、参加させたい。安全に楽しく過ごせる場として実施してほしい。

(委員) 大曾根地区は共働きの家庭が多い。放課後子ども教室があることで、子どもも親も安心して暮らしていくことができる。なくならないように進めてほしい。

(委員) 行政主体型放課後子ども教室について、近隣の学校や放課後児童クラブにはどのように募集をかけるのか。

(事務局) 具体的には検討中だが、現時点では学校や放課後児童クラブに情報提供を行うことを考えている。また、放課後児童クラブとして参加できるような内容、会場も考えていきたい。具体的なところは相談させていただきたい。

(委員) 行政主体型放課後子ども教室は公民館やコミュニティセンターを会場に考えているということだが、東子どもクラブからでは距離があるため、移動が難しい。お迎えの時間に対応することも難しい。参加できる範囲が限られてしまう。

(委員) 公民館の利用者の主体は高齢者である。小中学生、高校生の利用が少ない。この活動によって公民館が小中学生、高校生の利用活動拠点となる。これは地域の活性化、地域づくりに有効だと考えられる。

(委員) 放課後児童クラブを開設して20年ほど経った。子どもが育っていることを感じている。山形市は共働きの世代が多い。一小学区にマンションが次々にできているが、入居者のほとんどが若い子育て世代の方ばかり。両親は子どもを預けないと働くことができない。時代が変わり、放課後児童クラブを増やす必要が出てきている。コロナ禍でも第2学童を設置してもらい、感謝している。山形市の子どもだから、お手伝いがしたい。

(委員) 放課後児童クラブに入りたいけど入れない、いわゆる待機児童のような子どもはいるのか。

(事務局) 山形市では待機児童は0になっている。

(委員) 行政主体型放課後子ども教室について、まだ内容が見えにくい。来年度の実施に向けて試行錯誤しているところである。日時や場所、内容、送迎の方法など検討していく。以前は公民館で「少年子ども教室」を行っていたが、「放課後子ども教室」ということで考えたい。将来は36小学校区で地域主体型放課後子ども教室として実施することを理想としている。行政主体型放課後子ども教室はそのモデルとして行い、将来につなげていきたい。